

【背景および目的】

プリーツ加工を施しているワンピースやスカートは今トレンドである加工の一つである。自身の洋服にもプリーツ加工のスカートを持っているが、布を多く使っていることでボリュームも出すことができ、シルエットも魅力的である。

そこで、自身でできる防しわの実験を行い、その結果をもとに、プリーツ条件を選択し、プリーツを施した作品制作を目指すこととした。

【実験】

実験1<モンサント法による防しわ試験>

実験試料: ①ポリエステル白布(ポリエステル100%)、②綿/ポリエステル混紡布(綿50%/ポリエステル50%)

実験方法: 試料は 1.5cm×4cmの大きさに調製し、布地のたて方向およびよこ方向の裏表の試料について各10枚ずつ用意する。次に、金属ホルダーに調製した試料をはさみ、プレスホルダーに入れ、所定の条件にて折り目部分にしわをつけ、その後、プレスホルダーから試料をはずしてモンサント試験機に設置し5分後の開角度を読み取る。

実験2<ポリエステル(本布)の折り目プレス形状保持試験>

実験試料: たて10cm×よこ20cmに裁断

実験方法: 3種類の基本プリーツ折り目をつけ、T-falスチームアイロンアルティメット(FV9751J0)を用いてスチームアイロンプレス処理を行う。また、折り目の幅1.0cmとし、折り目開始および終了箇所印を入れておき、所定時間静置後のプリーツの開き幅について確認する。

【結果】

実験1: いずれの試料も乾燥しわ(図1)では防しわ率が高く、折り目につけたしわの回復性が高いのに対し、湿しわ(図2)での防しわ率は乾燥しわに比べると低い結果となり、しわ回復性が悪い結果が得られた。また、アイロンプレスによる熱処理はさらに防しわ率を低下させた。熱処理による折りじわは、特にポリエステルタフタ(図3)において顕著に現れ、これは熱処理によって熱可塑性であるポリエステル繊維の構成分子が運動したことに起因するものと考えられた。

実験2: ポリエステルのプリーツ保持性は高く、3種の折り目をつけて処理した各プリーツはほとんど幅は広がらなかった。ポリエステル布での折り目プレス形状保持は高いということがわかる。(図4)

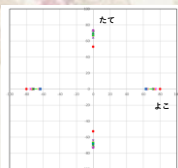


図1.綿ブロード乾燥しわ

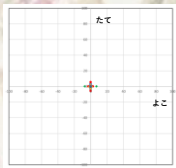


図3.ポリエステルスチーム有

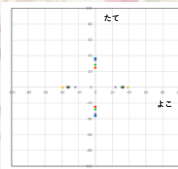


図2.綿ブロード湿しわ



図4.ボックスプリーツ保持実験



【まとめ】

実験を通し市販生地においてもスチームアイロンプレス処理によって形状が変化することが確かめられた。また、プリーツ保持性も確認することができた。得られた結果を踏まえて、ツーピースドレス制作を目指し、プリーツ加工を生かしたドレス、および帽子の制作を完成することができた。